



▲実施隊により銃器によって捕獲されたイノシシ（新宮地区）

山野議員

Q イノシシ被害の実態は

A 鳥獣被害防止実施隊を結成し箱わなや銃器で捕獲している（石井都市整備課長）

Q 昨年6月議会の質問で対策をお願いしたが、その後の被害状況や対策の結果はどうだったか。

A イノシシによる被害は、特に町内周辺部において農作物被害が多発。その対策として、鳥獣被害防止実施隊を結成した。箱わな15個を設置、銃器による駆除を5回行い、箱わなで10頭、銃器で3頭捕獲した。ヌートリア対策として、一定の講習会の受講修了者に捕獲おりを貸し出しする。既に農業委員等を対象に講習会を実施、希望者に順次貸し出しを行う。捕獲おりは17個購入済。今後も鳥獣被害防止実施隊による駆除や、電気さく等の設置補助を行うが、若い人の狩猟免許取得も必要と考えている。また、ヌートリア対策に一般農家の方にも講習会を開催する予定である。

教育部門

Q 公民館の活動グループの実態は

A 若い世代の公民館活用の垣根が低くなるよう工夫をしていきたい（柴原生涯学習課長）



山野議員

Q 公民館では10年前に比べ、活動グループの高齢化が進んでいる。若い世代の利用を増やすなどの対応策は考えているのか。

A ここ数年間グループ数、利用者数ともほぼ横ばいではあるが、高齢化の傾向は否めない。各公民館とも年配の方の活動に対して、施設面の工夫や、高齢者向けの講座の充実などで支援をしている。実際のところ、高齢の方の活動は各地域に活気を与えており、次の若い世代へと引き継げるよう努力をしていきたい。また、今後も若い世代の公民館活用の垣根が少しでも低くなるように工夫をし、地域の身近な生涯学習の拠点として、若い世代に対する公民館の役割について今一度検討したい。



山吹議員

Q 熊野団地内側溝の整備

A おおむね5年間で整備を終えるよう考えている（森本建設部次長）

Q 熊野団地内の側溝にかなり傷んだところがあり、地域懇談会においても質問が多くあった。現在の整備率、また今後の計画等については。

A 熊野団地内側溝の整備率は、平成22年度末で約42%となっている。今後の計画については、近年、年間約800万円程度で推移していた工事費を、来年度から倍額以上の予算を配分し、おおむね5年間で整備を終えるよう考えている。また、工事箇所については、今までどおり各自治会長と協議を行ったうえで決定していきたい。

山吹議員

Q 町道 出来庭川角中央線 新設工事

A 予算の重点配分を行い早期完了に努めていきたい（森本建設部次長）



▲町道出来庭川角中央線新設工事のようす（1月中旬現在）

Q 呉信用金庫付近の交差点から入ってくる車両が増加し、交通に支障を来している。歩行者も危険な状況にある。熊野団地からの流入車両を受け入れる町道出来庭川角中央線の早期完了が良策と考えるが、今後の計画等については。

A 呉信用金庫付近の危険な状況に対応するため、予算の重点配分を行い、町道出来庭川角中央線新設工事の早期完了に努めていきたい。なお、昨年10月末、国土交通省から第2次補正予算により約2000万円の増額となった社会資本整備総合交付金を本路線に配分し、繰り越し事業として取り組むこととし、現在計画では平成26年度末完了予定の本路線整備を1年でも早めたいと考えている。